

平成29年度購入文化財一覧

【奈良国立博物館】(計6件)

<p>1</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質・形状 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;絵画&gt; 絹本著色阿弥陀聖衆来迎図 (けんぽんちやくしよく あみだしょうじゅうらいごうず)</p> <p>1幅 鎌倉時代 13~14世紀 絹本著色 掛幅装 縦123.1cm 横84.0cm</p> <p>阿弥陀三尊と二十五菩薩による来迎を描く阿弥陀聖衆来迎図の優品。聖衆と共に宝楼閣(七宝宮殿)や無数の化仏が表されることから、『観無量寿経』を典拠とした「上品上生」による来迎を表したものと分かる。上品上生の阿弥陀来迎図は、法然周辺で描かれ熊谷直実の臨終本尊とされた京都・清涼寺の「迎接曼荼羅」(重要文化財・13世紀初頭)を嚆矢とし、本品もその例に連なる。精細な諸尊の描写、バリエーションの多い截金文様、透き通った天衣や光背の表現などの表現様式から、本品は鎌倉時代後期の貴重な作例とみなされる。 奈良県宇陀市大宇陀の大蔵寺(平安前期創建)に長く伝来した品で、出所の明らかな優品としても価値が高い。奈良県指定文化財。</p> <p>50,000,000円</p>	
<p>2</p>	<p>○種別 ○名称 ○員数 ○時代 ○品質・形状 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;絵画&gt; 絹本著色両界曼荼羅 (けんぽんちやくしよくりょうかいまんだら)</p> <p>2幅 鎌倉時代 14世紀 絹本著色 掛幅装 一副一鋪 胎蔵界：縦148.9cm 横128.8cm、金剛界：縦149.2cm 横129.9cm</p> <p>鎌倉時代に遡る極めて稀少な絹本著色の本格的な両界曼荼羅である。空海在世中に制作された高雄曼荼羅(神護寺本)の図像を踏襲する意識が強く、各尊の姿勢や衣文線など細部表現まで共通し、尊像数もほぼ一致している。弘法大師ゆかりの密教寺院、大蔵寺(奈良県宇陀市)に安置される根本画像を意識して制作されたものと考えられる。使用された絹は横幅130cm近い大幅で、経糸が細く緯糸が太い織りの特徴は鎌倉時代末期頃の作例に多く、本品の箱書墨書に「應永三年」(1396)とあること等から本品の制作年代を14世紀に置くことができる。</p> <p>30,000,000円</p>	

<p>3</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質・形状 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;絵画&gt; 絹本著色聖徳太子絵伝 (けんぽんちゃくしょくしょうとくたいしえでん)</p> <p>2幅 南北朝時代 14世紀 絹本著色 掛幅装 二副一鋪 第1幅:縦157.8cm 横86.5cm、第2幅:縦157.2cm 横86.7cm</p> <p>聖徳太子の生涯の事績を絵画化し、2幅の掛幅にまとめたもの。聖徳太子絵伝は太子の七百年遠忌にあたる元亨元年(1321)前後に多く制作されたとみられるが、本品はその時代に遡る貴重な古本である。メトロポリタン美術館所蔵品に構図や配置が共通しており、おそらく同一系統の工房(南都絵所松南院座が想定される)で制作されたと考えられる。大蔵寺(奈良県宇陀市)に伝来してきた作品で、中世南都の聖徳太子信仰の姿を現在に伝える作例として貴重である。</p> <p>40,000,000円</p>	
<p>4</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質・形状 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;彫刻&gt; 木造地藏菩薩立像 (もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう)</p> <p>1軀 鎌倉時代 13世紀 檜材 割矧ぎ造り 彩色・截金 像高81.1cm</p> <p>鎌倉時代の地藏菩薩像で、慶派ないし善派の力量ある仏師の作品である。制作当初の表面仕上げを多く残しており、特に質感のある衣文表現や、截金と彩色を交えた着衣文様などから13世紀前半に遡ると推定される。腰を左方に強く捻る姿の地藏菩薩像は大変特徴的で、僅か2件の類例が知られているのみであり、研究史上も見逃せない作例である。</p> <p>200,000,000円</p>	
<p>5</p> <p>○種別 ○名称</p> <p>○員数 ○時代 ○品質・形状 ○寸法等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;彫刻&gt; 木造毘沙門天立像 (もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう)</p> <p>1軀 鎌倉時代 13世紀 檜材 寄木造り 彩色・截金 像高54.8cm</p> <p>新発見の毘沙門天像の優品。忿怒相をとらない運慶様の毘沙門天像の一作例とみられ、鎌倉時代の慶派周辺の仏師による制作と考えられる。端正で写実的な面貌、均整のとれた姿態、諧謔味のある二体の邪鬼など、高い技量がうかがえる。表面彩色や截金文様、そして邪鬼・岩座まで当初のものであり、保存状態も良い。毘沙門天像のきわめて貴重な作例である。</p> <p>150,000,000円</p>	

6	<p>○種 別</p> <p>○名 称</p> <p>○員 数</p> <p>○時 代</p> <p>○品質・形状</p> <p>○寸 法 等</p> <p>○作品概要</p> <p>○購入金額</p>	<p>&lt;彫刻&gt;</p> <p>木造役行者倚像 (もくぞうえんのぎょうじゃいぞう)</p> <p>1 軀</p> <p>鎌倉時代 弘安 9 年 (1286)</p> <p>檜材 割矧ぎ造り 古色</p> <p>像高 76.9cm、坐高 51.2cm</p> <p>胎内銘により制作年と作者が判明する現存最古の役行者像。作者である大仏師慶俊は、南都で活動した善派の流れにある仏師で、まとまりの良い上品な作風にその技量の高さがうかがえる。かつて存在した木札墨書によって、享保 6 年 (1721) には大峯山上にあったことが分かり、造像当初から金峯山寺に伝来したとも推測される。昭和 33 年 (1958) より長く当館に寄託されており、山岳信仰の展示には必ず活用されてきた名品である。</p> <p>80,000,000円</p>	
---	---	---	---